

が取り組んで行かれるようお願いを申し上げます、市長の答弁をいただいて終わりたいと思います。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 まさに奇跡は人の心の中にしか生まれぬし、それを育てるのは人なわけでしょうから、我々がやはり熱く燃えて、参加して、乗って行ってということにみんなと一緒に取り組んでいかなければいけないと。テレビドラマ化は非常に大きいんです、確かに。映画のヒットなんていうものではなくて、テレビの20%というのは2,500万という話ですから、これはやはり大きいんですが、おっしゃるように映画のように1カ月ぐらいたスパークホテルに泊まっていたくなくて、これはやはり制作費の関係でぐっと縮小されるかもしれない。セットも相当出てくるかもしれないし、テレビドラマ化ということになりますと、しかしその中でも矢口監督が言っているのは、東北のあの美しい自然だ。それから、それをバックにした長井線だと。そして、四季折々の風景だと。特に冬のところなんかは非常に感動した。それから、東北弁だと。山形弁だ、置賜弁だと。これにも感動したと。こういうことを言うておられるわけですから、この要素を入れていただきながら、テレビドラマ化まで引っ張っていきながら、ぜひこの私も微力を尽くしたいし、蒲生議員からもぜひよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

9番 蒲生光男委員 終わります。

大沼 久委員長 次に、順位4番、議席番号2番 内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 私は去る9月8日の一般質問でフラワー長井線を存続させ、中心市街地の活性化を図るためにということで住んでよし、訪れてよしのまちづくりを六つの項目について質問し、それぞれ答弁をいただいたわけであり

ますけれども、市営バスについて、またフラワー長井線の利用拡大策としての全駅庭園化構想についての議論が余り深められなかったということで、一般質問に引き続きましてこの項目を質疑させていただきたいというふうに思います。

また、もう1点、総合型地域スポーツクラブの検討という点で順次質問させていただきたいというふうに思います。

まず、私はさきの一般質問で述べましたように、このたびの議案第56号に反対するものではありませんけれども、長井市には地域交通体形における公共交通機関の位置づけが明確にされていないのではないかといたしまして、その基本方針をお伺いいたしました。

市長並びに企画調整課長からは長井市の道路網を含めた地域交通体形の中でフラワー長井線は高校生やお年寄りなどの重要な足であり、公共交通機関の要と考えていると。しかしながら、このたびの致芳・平野・公立置賜総合病院線の市営バスの運行は以前から致芳・平野地区住民の強い要望があったもので、今泉から置賜総合病院のシャトルバスの見直しも含めて検討し、利用者の利便を考えて考慮して提案したものであるというふうに答弁があったと思いますが、そのように理解してよろしいか、もう一度市長にお伺いしたいと思います。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 基本的にそのとおりであります。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 ありがとうございます。それを前提といたしまして、これから自分の考えを述べさせていただきますが、今回の予算総括質疑での質問趣旨というのは、フラワー長井線を公共交通機関での地域交通体形の基幹に位置づけるとしたら、地域交通体形を確立していくには我慢できる不便さと我慢できない不便さがあるのではないかと、行政はやはり市民にきちんと理解してもらわなければならないの

かなというふうに思っております。市民にとっての一番便利なことは、交通においてはやはり Gate to Gate、玄関から目的地の玄関まで。これが一番いいわけでありませけれども、残念ながらなかなかそうは現実的にはいれない。一番いいのはタクシーとかそういったものですといいいわけなんです、かなり金額的にかさむということがあって、今は鉄道フラワー長井線があると。あとはバスは一部路線バスもありますけれども、この市営バスに頼らざるを得ないという状況なわけでありませけれども、結局、我慢できる不便さというのが、言いかえればフラワー長井線があることによって、とりあえず駅に行くには足がなくて不便かもしれないけれども、行ったらその目的に近い駅まで行けると。その目的に近い駅まで行ったら、そこからまたさらに実際の目的地まではまた不便さを感じるわけでありませけれども、これがフラワー長井線がなくなった場合、駅がないわけですから、何らかの方法で目的地に乗り継いでいかなければいけなと。交通弱者、いわゆる高校生とか、お年寄りについては、その点、今の長井は非常に厳しい状況にあるわけです。私は企画調整課長の佐々木謙二委員の答弁でもあったんですが、アンケート調査をこれからフラワー長井線をやりたいと。そういう話があったわけでありませけれども、アンケート調査をすると同時に、やはり先ほど佐々木謙二委員から富山県の高岡市の事例ですか、いわゆる市民への鉄道が必要だということの啓蒙。そういったものを同時にやっていくべきではないのかなというふうに思っております。ですから、本当は鉄道があることによって、とりあえずちょっと不便だけれども、我慢すればきちんと目的地につけるんだと。ところが、この鉄道をないがしろにしてしまったら本当に大変なことになりますよ。それを実際、子供がとか、孫が利用していない、あるいは自分が利用しないから全然関心ないと

いう人が大分多いような気がしますので、ぜひ市民に対する啓蒙を行政としてやっていただきたいと思いますが、その点市長はどういうふうに考えていらっしゃいますか。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 これはぜひ行政も大いに力を入れてやらなければいけなと、それから教育関係者に、さっき渡部元議長が回っていただいている、行政にも、議会にも呼びかけられたわけですが、そういった運動もありますし、今までもFNの会もありましたし、それからやはり今後も粘り強く市民の皆さんに行政としてやれることをしっかりとやっていながら、やはり住民の皆さんのパワーをいただかないと、なかなかこれは永続的な存続というふうにはならないわけですから、その具体的な提案も含めて実現できるように前進させていきたいと思ひます。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 先ほどの佐々木謙二委員からの質疑で大分フラワー長井線については私が聞きたいことも大分聞いていただけましたし、できるだけ省略して進めていきたいというふうに思っておりますが、今後、市営バスをまたさらに、3路線が今度できるわけでありませけれども、見直しも含めてどういふふうな市営バスの運行がいいのかなというところが、やはりもう少し議論をしてかなければいけなとではないかなと私は思っています。

それで、やはりフラワー長井線を基本として、市営バスというのは2次交通に徹するべきだと。ですから、あくまでも同時並行的に走るのではなくて、例えば、中央地区で言ったら南北線はできるだけ走らなと。東西線をメインとして、きめ細かくそれこそ各町内に必ず1カ所停留所があると、また、観光スポットもそれに入れると、もちろん病院も入れると、公共施設を入れると。そういうようなきめ細かい、やはりワンコインで乗れるようなバスというのが本当は必

要なのではないのかなと。この点やはり主管課の企画調整課なんかに確認しますと、実際、それだけの需要があるのかどうか分からないと。今でも赤字なのにやってしまったら、またさらに赤字になったのでは困ると、どう思いますかと逆に聞かれるんです。私はやはりこれはマーケティングしないとだめなんでしょうけれども、むしろ必要なのはマーケティングというよりも需要の掘り起こしなんじゃないかなと。ですから、フラワー長井線を使って病院に行くとか、買い物に行くとか、そういったような誘導の仕方として、やはり市営バスを考えていくというふうなことが大切だと思いますけれども、この件に関して企画調整課長どうでしょうか。

大沼 久委員長 中井 晃企画調整課長。
中井 晃企画調整課長 今回の路線バスの見直しにつきましては、西根のバスを参考にいたしまして、どういったニーズでバスを利用される方が多いのかというのをもとにいたしまして、バスの空白地域の方々に通院のためにバスを走らせるというような視点で今回は運行をさせていただいております。

今までの運行の経験上、そういったニーズはわかってきておりますけれども、観光地へ行くための2次交通としてのニーズなり、あるいはフラワー長井線を利用するための駅へのアクセスとしてのニーズがどのくらいあるかというのはまだわかりませんので、今回のバスで一応伊佐沢地区を除きまして全地区を走ることになりますので、傾向を見ながらどういった対策がいいのかというのを、これからも考えていきたいというふうに思っております。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 再度、企画調整課長の方にお伺いしますが、これから検討していただくということなんです、例えば、今の市営バスというのはスタートが結構8時台ですよ。フラワー長井線の本来、利用者なんですよ

うけれども、私の地元の今泉なんか見てみますと、随分長井方面から自家用車で今泉まで送ってこられる方が多いんです。たまたらフラワー長井線に乗りおくれたのかどうか分からないんですけれども、恐らくそのうち想像するに、フラワー長井線の例えば長井駅まで遠いんじゃないかと。車でやはり五、六分かかると。だったらついでにもう今泉まで送ってやるわというケースが多いのではないかなと思うんです。

例えば、この市営バスも普通の例えば、都バスみたいに朝の6時台から、いわゆる通勤、通学の人にも対応できるような、そういったことも必要なのではないかなと思います。

あと、観光についてはどれだけ利用者がいるかどうか分からないということですが、今の段階ではほとんどいないと思います。ただ、前回の一般質問で資料として商工観光課から配られたまちなか散策ガイドですか。あれの資料なんか見ますと、それなりの受け入れ体制を整えれば、知らないだけで観光客もまちなかを散策したいと、してよかったというようなニーズなり、感想があったわけですね。ですから、今後の課題としてぜひ観光、それから特に通学の高校生とか、その辺も視野に入れた路線も検討をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

大沼 久委員長 中井 晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 バスの車両の台数の問題もありますので、全部ができるというわけではありませぬので、できるだけニーズには対応できるような路線の修正でありますとか、運行時間の修正というのは考えたいというふうに思っております。

ただ、早朝なり、通学時間に合わせましたバスの運行をという話でありましたけれども、現在のバスの運行につきまして、8時から4時過ぎまで運行してありまして、それでも8時間を超えるというような状況で運行をいただく予定になっております。もう少し早い時間なり、遅

い時間の運行をとりましますと、運転手の体制等も含めて、少し大きい見直しが必要なのかなというふうに考えております。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 その運行については、例えばことし教育委員会の方で長井南中のスクールバスを委託しましたけれども、あれは日中何もしていないですよ。朝晩だけですよ。でも、それだけでもちゃんと人は対応できると思うんです。ですから、やはりどういうふうにしたら一番市民にとって便利だし、不便の中で便利だし、フラワー長井線の利用者がふえるかという視点で発想を転換してもらいたいなという感じがするんです。そういうつもりでおっしゃっているのではないかもしれませんが、私から見れば、フラワー長井線が基幹の交通機関だとおっしゃるんですが、そうではないのではないかと。やはりバスはバスで考えているなという感じがしますので、例えば、これから来年度以降のフラワー長井線の赤字の対策について、やはりフラワー長井線の筆頭株主であります県の方から具体的にいろいろお金もいろんな面で支援していただくわけですが、地元の長井としてその部分が誤解されないように、ぜひ今後、慎重にという言い方はおかしいかもしれませんが、これからの路線については、ぜひそういった前向きに、フラワー長井線を中心に組んでいただきたいと思います。これは答弁要りません。

次の(2)に入ります。フラワー長井線と中心市街地のまちなみを観光交流の核とすべきではないかという点について入らせていただきます。きょう資料を委員長の許可を得ましてつけさせていただきました。一つは山形県の主たる観光地の客数ということで、これは15年、16年の観光物産課の資料。これを私が拾いまして自分がつくった資料なんです、これを見ますと15年度、これ16年度の8月発表のものなんです

が、実数で3,660万人いるんです、山形県の観光客というのは。観光地類別というのはこれは項目順なんですけれども、一番多いのが名所旧跡観光地と、次に温泉観光地というふうになっていまして、驚くことに名所旧跡が一番多いのが米沢の上杉神社周辺の史跡なんです。総延べ客数で207万8,000人。うち県外客が144万3,000人と県内客が63万5,000人ということで、この数字のトリックなのかなというふうに思ったりもするんですが、実態だなというふうにやはりいろいろ調べましたら思いました。

あと温泉地も近くの赤湯、小野川、白布はやはり10万、20万ということで少ないんですが、上山、天童、蔵王に至っては100万から150万という観光客が山形県を訪れているという実態であります。そんなことと、あと裏側に東京ガーデンジュエリーという、これ東京都で今開催中の都がやっているイベントなんですけれども、この記事。それと美しいまちづくりということで、自治体の報告、小布施町長の報告。これはガーデニングのために、ちょっと長いんですが、特にお願いいたしまして資料をつけさせていただきました。山形県にどれだけ観光客が来ているかということと、ガーデニングに対するぜひ理解を深めていただきたいということで資料をつけさせていただきました。

それで、私はさきの一般質問の中で、やはりガーデニングが長井のまちづくり、まちおこしの有効な手段になるのではないかという趣旨の提案をいたしました。フラワー長井線の全駅公園化構想というのは、そのガーデニングというものに基づいた考え方だと。ですから、どうしてもガーデニングと言いますとなかなかぴんと来ないと。あやめ公園とか、つつじ公園という花観光について我々身近なわけですが、ガーデニングについてはわからない人が多いのではないかなというふうに思いますが、市長にお伺いしたいんですけれども、このガーデニン

+

グが私は長井市のこれからのまちづくりにぜひ必要な要素ではないかなというふうに思いますけれども、市長はどのように考えられますか。見解をざっくばらんで結構でございますのでお願いします。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 内谷さんはもうガーデニングについてはプロフェッショナルで勉強していらっしゃるわけでありまして、この小布施町の報告等もぜひ私はもっと勉強させていただきたいと思いますが、今やはりガーデニングをまちおこしにしよう、それはまた新しい住宅、あるいは改装するときにそのときにはガーデニングをちゃんと考えてやろうというのが非常に主流になりつつあると。そういった意味では私は着想としてそういう時代に入ってきたのかなというふうに私も思っております。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 この小布施町の資料はちょっと補足して説明いたしますと、平成13年に全国12市町で全国ガーデニングサミットという組織ができたんです。この中で小布施はもちろん長井市とフラワー友好都市で提携を組んでいます宝塚とか、あとは北海道の由仁町ですとか、そういったハーブですとか、ガーデニングの公園を持っている、あるいはこれからガーデニングで町おこしをしようとしている市町村が加盟しているわけなんですけれども、ちなみにこの小布施は平成15年に第3回目で開かれたということなんです。

私はガーデニングというものを観光サイドでも構いませんけれども、ぜひ取り組んでもらいたいと。ガーデニングのよさは、この小布施の資料でも書いてありますけれども、まず単なる見るだけではなくて、参加型のいわゆる花観光だと。フローラルガーデン小布施というのがありますけれども、これは目的が観光客に来てもらおうという目的もあるんですが、ガーデニン

グの技術を取得したり、あるいはデザインとか、そういったものを学ぶための一つの展示施設みたいな格好でつくったんです。それが、どんどん広がってオープンガーデンということで、自分の庭にいわゆる西洋風のガーデンをつくって、それを一般市民に開放すると。それが小布施が60カ所あるということで、観光客が特にガーデニングに興味がある人たちが、そこにそれぞれ訪れて、そして単なる見るだけではなくて、オーナーと話をしたり、この技術はどういうふうにしてやるんですとか、カットですとかそういったことを聞きながら、交流も深めるといいですか、そういう部分までつながるのではないかなというふうに思っています。

商工観光課長の方にお伺いしたいんですけども、これから長井の現在、花観光というのがあるわけですが、そのあやめ、つつじ、萩、それから桜なんかもありますけれども、その現状とあと観光全般についてどのような課題があるか、簡単に結構でございますので答弁をいただきたいと思います。

大沼 久委員長 那須宗一商工観光課長。

那須宗一商工観光課長 内谷委員のご質問にお答えをいたします。ただいま内谷委員からもございましたように、長井市にはあやめ公園、つつじ公園、久保桜、草岡の大明神桜といった大変すぐれた観光資源が多いわけですが、ただ残念なことに通過型の観光になってございまして、なかなか滞在して回っていただくというふうな状況にはなっていないというふうに考えております。これからはやはり1カ所の点の観光から、線、面といった形で、より広く動いてもらうといたしますとか、歩いていただけるような観光施策が必要になっていくのかなというふうに思っております。

そういった中で、例えばあやめ公園に来られた方に対しまして、まちなかを散策していただくような街路事業なども実施してまいりました。

このアンケート調査結果につきましては、先日皆様方のお手元にお配りいたしました、大変好評でございました。そういったことから考えますと、これからはできるだけ町中を歩いていただく、あるいはフットパスの整備によって、長井の豊かな自然の中を歩いていただくというふうなことが必要なのではないかなと考えております。

あわせて、その場で食事や休憩をしていただくといったことを通じまして、長井のよさというものを一層アピールできるのではないかなというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 ありがとうございます。まさにそのとおりだなというふうに私も思います。それで、私のこの題目にありますフラワー長井線と中心市街地のまちなみを観光交流の核とすべきという点につながってくるわけなんです、やはり点だけではだめだと。やはり線から面にしなければいけないと。特に今、建設課、それから商工観光課、企画調整課とあわせて、街路事業なりこれからの中央地区の中心市街地の活性化策を模索しているわけなんです、長井の場合はよく言われるのは、国の省庁などに言ってもいわれるのは、長井市は中心市街地を活性化しようとするんだったら、まずきちんとした活性化ビジョンが必要なんじゃないかと。中心市街地の基本計画を、まちづくり計画をつくらなければいけないのではないかとよく言われるんですが、いまだに中心市街地活性化基本計画、これつくっていないんですけれども、これぜひ早急に街路事業をこれから進めるわけですので、並行してでもしようがないと思いますけれども、策定すべきだと思いますが、どのように考えておりますか。商工観光課長にお伺いします。

大沼 久委員長 那須宗一商工観光課長。

那須宗一商工観光課長 お答え申し上げます。中心市街地活性化基本計画策定の必要性についてのご質問ですが、これはいわゆる中心市街地整備改善活性化法により、市町村が一定の条件を満たす区域を中心市街地と定めるとともに、中心市街地の活性化のための方針や目標、実施する事業に関する基本的な事項等を内容とする基本計画でございます。こういった基本計画を策定することによりまして、各省庁の支援メニューを活用することが可能になるということは内谷委員のご指摘のとおりでございます。

市といたしましても、中心市街地活性化基本計画の重要性については十分認識しておりますし、第4次基本計画の中でも中心市街地活性化推進機関を設置いたしまして、中心市街地の機能や整備方則について検討することといたしております。

今後は本町中央まちづくり協議会や、長井まちづくりNPOセンターなどの市民の皆様のお話をお聞きいたしまして、策定に向けた準備に取り組んでまいりたいというふうに考えておるところでございます。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 私も全くそのとおりだと思います。ぜひ中心市街地の活性化基本計画を策定すべきだと思いますが、やはりお金もかかります。そこで、ちょっと市長にお伺いしたいんですけども、私、今回のこの部分の質問では、フラワー長井線の全駅公園化構想、これは漠然としたもので、事業主体もまだはっきり定まっていないわけでありまして、まず一つはガーデニングという切り口、そして中心市街地と長井駅というのは隣接しているわけですから、街路事業で一番求めているのは、とにかく多くの人に町に来てもらうことだと。それは買い物客、地元客もちろん、観光客も含めてだということです。私、先ほどの資料の中で、

+

隣の米沢に県外客が年間140万人以上来ているんだと。そのお客さんの大部分がケース・バイ・ケースもあるんでしょうが、上山ですとか、あるいは地元の小野川、白布、赤湯あたりに泊まるお客さんも多いわけです。そうすると、ちょっと足を延ばせば、フラワー長井線で長井まで来れると。それによって140万人のうちの例えば10分の1で14万人ですよ。ですから、そういったこれ決して無謀ではないなというふうには私は思うんですけども、市長に今後の長井の観光といいますか、どのように考えておられるか。非常に漠然とした質問なんですけれども、あと中心市街地の活性化基本計画、この必要性も含めて答弁いただきたいと思います。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 まず、中心市街地活性化基本計画につきましては、やはりこの計画をしっかりと立てて、それから各省庁のメニュー等も見て、やれることは、取り入れるべきことはそこで取り入れるということにした方がいいことは当然でありますから、これはまずこの財政再建5カ年計画がことしが一番の山ですが、少し明るさが見えてくる。余り置いておけないなと。これは担当課もぜひやりたいと言ってきておりますから、私も真剣に予算化についても相談に乗っていきたいというふうに思います。そういった中心市街地の活性化計画等も踏まえながら、今現実に本町がこうやっている。それから、若い皆さんが観光の交流のまちづくりで頑張っている。そういう皆さんをしっかりとご意見を伺いながら、やはり長井のフラワー長井線というのが一つあるわけですが、やはりレベルアップというんですか、そういうことをこれから考えていかなければいけないのではないかと。魅力をアップするということですか、そういったことが大切なのではないかと。

しかし、もう一つはやはりもてなしというか、おもてなしの心ということですから、市

民の皆さんとともに、よそからお出でいただいた皆さんが声をかけられて、いろいろ親切にしてもらって、お茶1杯飲んで話をしてよかったと、もう一度来てみようかというふうになるようなおもてなしの心もソフトとしては非常に大事なわけですから、そういった全体のことを考えていかなければいけないなと思っております。大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 大変前向きにご答弁いただきましてありがとうございます。やはり市長おっしゃるようにホスピタリティーといいますか、それがまず一番大切だなと。町に人を受け入れる際には、それが一番大切だなというふうに思います。結局は長井ファンをふやすと。リピートのお客さんをふやさないことにはしようがないのではないかなと私も思います。

それで、ちょっと少し外れるんですが、先ほど蒲生光男委員の方からスウィングガールズの応援隊についてお話ありました。私はこういう観光、あるいは全駅公園化構想なんかもそうなんですけど、やはり何事もスピードとやはりどこでもやっていないという部分を発見したらすぐとにかく取り組むことだなというふうに思っているんです。それで特にスウィングガールズについてはずっといろいろ議論を私も聞いておりましたけれども、全くそのとおりで、一つ私の方からもアイデアを出させていただきたいと。それはスウィングガールズ応援隊の方にこれから会合があるということですので、まだどこでもやっていないと思うんですが、ぜひ長井スウィングガールズという組織をつくったらいいのではないかと。若い、高校生は難しいかもしれませんが女性15人ですか、それから男の子が1人。それと同じ格好で、まだどこでもつくっていないはずですから、早くつくった方が勝ちですよ。話題性づくりというのはやはり必要なのではないかとというふうに思いますので、これどなたにお願いしたらいいかわかりま

せんが、市長はビクターの社員でいらっしやっただけですから、その辺どうでしょうか、その辺のアイデアというのは。もしあれでしたら、市長部の方からご感想をお聞きし、ぜひどなたかに支持をしていただければと思いますがいかがでしょうか。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 アイディアは大賛成です。ただやはりピックバンドをつくるためにはやる人たちが必要ですね。吹奏楽は工業高校、長井高校もやっているわけですから、私はそういう皆さんの中でやるんだったら割とできるのではないかと、すぐ。これはでもお願いするとしたら教育長だな。高校とか、中学校のあれで、長井スウィングガールズをちょっとつくってみようかというような、それとやはり商工会議所にも相談しなければいけないでしょうし、あやっかに集まるまちづくりの皆さんにも相談したいと思います。すぐつくれるのはやはりそういう演奏できる皆さんですから、それはやはり高校とか、中学校の吹奏楽部をお願いするということは可能だしおもしろい。一つ検討してみて、大丈夫だね、教育長。大丈夫だそうですから、よろしくお願いします。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 どうもありがとうございます。教育長の方もぜひご検討いただきたいと思います。

それでは、次のフラワー長井線沿線の花いっぱい運動の推進とフットパスの整備ということについて質疑させていただきます。

先ほどからガーデニングの話をしてありますが、実は平成9年に農林水産省の外郭団体がありまして、この都市農山漁村交流活性化機構という団体があるんです。この中にガーデン研究会というのが発足しているんです。ガーデニング産業が非常に有望であるということ農林水産省自体で将来性を理解して、こういう組織を

つくってもらったわけですがけれども、農林課長にお伺いしますけれども、現在の長井市のガーデニングといいますか、花卉産業があるかと思えますけれども、ガーデニングの実態をわかる範囲で結構ですから、それと今後どういうふうな取り組みを検討されるとしたらその辺をお伺いしたいと思います。

大沼 久委員長 梅津和土農林課長。

梅津和土農林課長 内谷委員のご質問にお答えしたいと思います。委員おっしゃるように長井市内の花卉産業と言われるものはあるわけでございますけれども、その大部分につきまして、やはり花とか、緑化とか、園芸というふうなのに特化した産業であるというふうには私は思っております。私個人的にはガーデニングについての認識が不足しておりまして、産業としての将来性というようなのを分析するにはちょっと勉強不足な点がございまして、委員おっしゃられた活性化機構のホームページを早速見させていただいたり、ご紹介いただいた文献について読ませていただいたりいたしますと、やはり今後は取り組みを検討すべき事項ではあるというふうには認識しているところでございます。

また、活性化機構のホームページを開きますと、グリーン・ツーリズムの方が大きくちょっと取り上げているようなところがございましたので、このグリーン・ツーリズムにつきましては、商工観光課も同じですけれども、山形県としてひとつグリーン・ツーリズムの運動を展開しておりますので、これにつきましても積極的に県としても取り組んでおりますので、今後とも動向について注目させていただきたいというふう考えております。

以上でございます。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 ありがとうございます。なかなか具体的にどう進めるかというのは難し

いと思いますが、そういった視点を持ちながら進めていただきたいというふうに思います。

3時になります、1点だけもう一度農林課長にお伺いします。市報の9月15日号にも掲載されておりましたけれども、特定非営利法人ですか、NPO置賜サロンでフラワー長井線沿線の花を飾って利用拡大につなげることを目的ということで、沿線の耕作放棄地、あるいは転作地などに菜の花を植えようと。それを咲かせてくれる人を募集しますというようなことが載っておりました。この取り組みについては、菜の花ということについては、一般質問で渋谷佐輔議員の方から菜の花プロジェクトという話がありましたけれども、これと関連しまして行政サイドとして、これは転作がらみになると思いますが、例えば、転作の振興作物ということで奨励することができるかと思うんですが、この辺いかがでしょうか。お伺いします。

大沼 久委員長 梅津和土農林課長。

+ 梅津和土農林課長 お答えさせていただきます。フラワー長井線の利用拡大のために沿線に菜の花を植えようという取り組みについては大変よいことだというふうに思っております。今、委員のおっしゃったご質問につきましては、菜の花プロジェクトの関連事業として、転作サイドから振興作物等で行政支援をできないかというふうなご質問だと思います。

さきの渋谷佐輔議員の一般質問をかいりみますと、渋谷委員のお言葉をおかりしますと、プロジェクトの会員は25名で、作つけ面積は26ヘクタールというふうなご発言があったというふうに記憶しております。

一方、転作ですが、ことしから生産調整というふうなことになるわけですが、平成16年度の共済細目書からのデータによりますと、菜の花、菜種というふうな名称で転作をしているわけですが、98アールございます。約1ヘクタールでございますが、そのような転作の実績

になっております。さらに、それでは現在フラワー長井線沿線にどれぐらいの生産調整の面積があるかと。いわゆる転作面積が沿線にどれぐらいあるかというのを拾ってみました。そうしますと、長井市内ですけれども、今泉から白兔境までの間で沿線の集計でございますが12ヘクタールの面積が転作として実際行っているということがわかっております。

ただ、そのうち大豆につきましては8ヘクタールと。大部分が大豆というふうなことになります。大豆は現在でも産地づくり、昔で言う転作奨励金ですが、産地づくり交付基準の主力でありまして、10アール当たりの交付額につきましては1万円というふうなことになります。ちなみに菜の花、菜種ですけれども、これは7,000円というふうな基準になってございます。

先ほど委員の方から振興作物というふうなお話がありましたので、その辺の観点から申し上げますと、長井市の水田農業ビジョンで定める振興作物は現在10品目ございます。残念ながら菜の花については含まれていないわけでございますけれども、この振興作物の選定につきましては、毎年水田農業の協議会、長井市水田農業推進協議会で作物の選定をするというふうなことになってございますので、何年間も菜の花が振興作物になることはできないということではございませんので、そういうことを検討させていただきたいというふうに思っております。

以上でございます。

大沼 久委員長 ここで暫時休憩いたします。再開は3時20分といたします。

午後 3時01分 休憩

午後 3時20分 再開

大沼 久委員長 休憩前に復し、会議を再開い

たします。

ここで、先ほどの答弁の中に数字の違いがあったそうでございますので、梅津和土農林課長より答弁をさせます。

梅津和土農林課長 大変失礼しました。先ほどの答弁の中で菜の花の作つけ面積でございますが、26ヘクタールと言ったそうですが、2.6ヘクタールの誤りでございますので、訂正をさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

大沼 久委員長 それでは、内谷重治委員の質疑を続行いたします。2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 次に企画調整課長にお伺ひしますが、現在、まちなか散策のフットパスの路線、コースづくりを行っていると思ひますが、案内板や看板などのサインをつくるということのようなんですけれども、フットパスの楽しみ方はいろいろあると思ひますが、そういう散策をしてまちなかの風景を楽しむということもあるんですが、健康増進という意味合いもあるというふうに私は思っています。そこで、フラワー長井線の沿線に新たにつくる必要はないと思ひますが、やはり散歩できるコースをつくったらいいんじゃないかと。花を見ながら、そして沿線の水田の花を見ながら、また駅々にはやがてすべての駅に庭園ができるわけですから、そして自分の体力に合わせて散歩すると。そして、疲れたらフラワー長井線でまた戻るといふようなコースも考えられると思ひますが、こういったことをぜひ検討していただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。

大沼 久委員長 中井 晃企画調整課長。

中井 晃企画調整課長 現在のフットパスでございますが、主に最上川の河川敷を中心にコースを設定させていただいております。河川敷だけでは長井市の魅力を十分に味わっていただけませんので、まちなかのルートも含めまして、フットパスのコースを設定させていただいてお

ります。

フットパスのコース設定につきましては、必ずしも行政側なり、地元の方がコースをつくらなければならないというものではありませんので、フラワー長井線沿線の魅力のあるルートであれば、地元の方が自主的に歩かれるという形で、自然とフットパスのコースができるということもあるかと思ひます。また、菜の花プロジェクトにあわせまして、沿線にちょうどよい見えて楽しい、あるいは歩いて楽しいという環境ができましたら、皆さんの人気も出てくると思ひますので、そうした際はどのような対応をすべきかというのをもう一度検討させていただきたいというふうに思ひます。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 ぜひ新たな投資をすることではなくて、コースづくりをすればいいかと思ひますので、そのことも念頭においてぜひ今後進めていただきたいというふうに思ひます。

次に、時間もないので、急いで質問いたしますけれども、街路事業の推進と景観協定、それから建築改修補助制度の検討ということについて、建設課長からお伺ひしたいと思ひます。

私はただいまずっとお話ししましたように、フラワー長井線の活性化と中心市街地の活性化というのは、一体に進めるべきだと思ひます。街路事業がことし調査費がついたということで、これから対象地区の住民、地権者、それから商店街の皆さんといろんな話し合いをしながら進めていくのだと思ひますけれども、まず簡単で結構ですからどんな状況なのか、今後の進め方についてお伺ひしたいと思ひます。

大沼 久委員長 浅野敏明建設課長。

浅野敏明建設課長 お答えいたします。委員がお出ししました本町の街路につきましては、主要地方道長井大江線ということで県道になって

+

おります。事業主体は山形県となるわけですが、街路事業採択に当たりましては、まちづくり協議会の設立やまちなみ協定を締結するなど、中心市街地の活性化が図られるまちなみ計画を策定することによって評価されまして、事業化に進めるということになると思います。現在は本町中央まちづくり協議会として設立を図るため、本町北、本町南、及び栄町の地区役員や商業者などで発起人会を組織しまして、10月末には設立総会を開催すべく準備を進めているところであります。

以上です。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 これから実際どのような町並みにするか話し合いがもたれるのだと思います。ただいま課長からお話ありましたように、景観協定も同時進めるということでありますが、ぜひ今回の街路事業の地域だけではなくて、その隣のあら町、あるいは宮地区の大通りとか、高野町、十日町とかそういったところにも大変いい建物もあったり、古い長井ならでわの商家のたたずまいなんかもあると思いますので、ぜひ景観の協定を全体的なものとしてとらえていただきたいということ1点と、それからその建物もやはり人に見ていただくには随分傷んでいるなというふうに思われる建物がいっぱいあるんです。非常にいい建物なんですけど残念だなと思っています。産業建設常任委員会の行政視察を昨年、ことしと景観関係で勉強してまいりましたけれども、そういう観光客が集まるような町は、やはりある程度建物についての補助制度、あるいは融資制度とそういったものも設けているようです。ぜひ長井でもそこも含めて今後検討をいただきたいと思います。景観協定のことと、それから補助、融資制度について、どのように考えておられるか建設課長にお伺いします。

大沼 久委員長 浅野敏明建設課長。

浅野敏明建設課長 本町中央地区まちなみ計画

などを策定をこれからするわけですが、当然市街地全体のまちづくりも検討しなければならないというふうに思っております。今後、関係課と調整しまして、全体のまちづくりを検討する場を、組織をつくりたいというふうに考えております。

また、後段の方の融資制度であります。そういった全体のまちづくりを検討する協議会的なものの中で、これから議論していきたいというふうに思いますが、長井市の中心市街地には歴史的な貴重な建物が多くあるということもただいま委員がお話ししたとおりであります。当然、保存する計画についても欠かせないものと思っております。

しかし、もてなしのまちづくりなど、観光地としてのまちづくりを基本的には民間活力によって活性化を図るということが大事だと思いますので、それを基本にしながら、ただいま委員の方からご提案あった制度についても、今後も議論していきたいというふうに思っています。

以上です。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 どうもありがとうございました。ぜひ商工観光課、企画調整課と歩調を合わせながら、それ以外にもいろいろ関係各課調整をとらなければいけないと思いますが、中心市街地活性化基本計画のことも含めて、ぜひ前向きにいろんな意味で検討をいただきたいと思います。

それでは、次に大きな2番目になります。総合型地域スポーツクラブの検討について質問をさせていただきます。

次年度以降、来年度以降、市の体育協会並びに体育指導委員会、それ以外にもいろいろ保健体育費の中で補助金、助成金というのがあるかと思っておりますけれども、今年度は大分そういった経費が昨年から比べて削減されたと思っております。ゼロもしくは半分以下になったというところが

あると思いますけれども、昨年と比較した実態を改めてお伺いしたいと思いますので、文化生涯学習課長にその点をお伺いしたいと思います。大沼 久委員長 平 進介文化生涯学習課長。平 進介文化生涯学習課長 お答え申し上げます。今年度の保健体育費の補助金、委託料関係ですが、体育協会関係ではすべての補助金、委託料がゼロとなりました。内容ですが、運営費補助金32万4,000円、夏季総合体育大会委託料54万円。これは26加盟団体のうち、あやめ大会として16競技団体が実施するための委託料でした。また、社会体育推進事業委託料133万6,000円。これは少年団、中学、高校、一般選手、そしてチームの競技力向上を図るための強化費や体育協会会員や市内の児童生徒などが県代表として東北大会や全国大会などに出場したときの激励として支出していたものであります。

次に、市体育指導委員会補助金5万1,000円、市女性スポーツ団体活動費補助金8万5,000円も全額カットとなっております。

あと、スポーツ少年団関係ですが、平成15年度は29単位団の運営費補助金として122万8,000円の予算でしたが、今年度は単位団を育成する育成費補助金がカットされまして、団員、指導者を育成する事業費として新たに60万円が予算化されたというふうな実態でございます。

以上でございます。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 今お伺いしたら本当にほとんど削られたということのようなんですが、実際助成金がなくなったり、補助金がなくなった団体では実態として今年度どのような対応をして活動をなさっているのか、その辺、把握をされておりましたら文化生涯学習課長にお伺いしたいと思います。

大沼 久委員長 平 進介文化生涯学習課長。平 進介文化生涯学習課長 女性スポーツ団体連絡競技会や体育指導委員会等では、昨年補助

金等の削減があるというふうな状況を得た時点から事業の縮小を図って、繰り越しを多くしたり、経費の節減を行って、今年度の予算を確保しながら活動を行っているというふうな状況です。

体育協会につきましては、平成15年度予算額220万円が今年度全額減額というふうになりましたことから、選手強化費を設けなかったり、激励金なども減額するなどして工面をしている状況です。

ことしの夏季総合体育大会につきましては、各競技団体におきまして参加料の値上げやスポンサーの確保などをしていただいて、例年開催の16団体全部があやめ祭り期間中を中心に開催をしていただきました。体育協会の長井市スポーツ振興基金、以前も議会で話題になりましたが、いわゆる賛助会費の中から、今年度は100万円を繰り入れながら厳しい状況に対応するというふうな状況です。この賛助会費についてですが、平成15年度の決算では324人の個人、団体から120万6,000円の会費をちょうだいしております。その中で、体育協会加盟者自身が負担している分というのが、人数割合で85%、金額の割合では72%というふうな状況でございます。ほとんど体育協会加盟関係の方々が拠出しているいわば内部基金というふうな性格が強いように思われます。

以上でございます。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 昨年度の繰り越しと経費節減といたしますが、かろうじて運営されている各団体の実態というのは今伺い知ることができたわけでございますけれども、次年度以降、この補助金とか、委託料のあり方について、主管課長としてどのように考えておられるか、簡単に、簡単にというわけにいかないんですが、時間もないので手短にお答えいただきたいと思

大沼 久委員長 平 進介文化生涯学習課長。
平 進介文化生涯学習課長 今年度から始まりました第4次長井市総合計画でもスポーツの振興を掲げておりまして、その推進を図るために市直轄で行えない部分については、体育協会などに委託しながらやっていかなければならないというふうに思っております。時代を担う青少年の心身ともに健全な育成を図る上で、スポーツは欠かせないものというふうなことでありますので、その青少年を指導するスポーツ指導員、コーチの育成もまた重要であるというふうに考えております。

今年度は特に中学生の活躍については目を見張るものがあったということで、この活躍につきましては、スポーツ少年団の連携と選手指導者、そして関係者の日ごろからの努力の賜であるというふうに考えておりまして、同時に体育協会各競技団体の強化事業の成果でもあるというふうにも考えております。

+ 今年度につきましては、厳しい財政を乗り切るために補助金等の見直しによりまして大幅な削減となりましたが、本来行政としてしなければならないところにつきましては、関係団体に委託料としてお願いし、また各団体の事業に係る分については事業費補助として財政当局にしっかり予算を要求しながら、生涯スポーツ、競技スポーツの振興を図らなければならないというふうに考えております。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 今、平 進介課長がおっしゃったように、ことしは市政50周年ということで、余り明るい話題が市内になかったんですが、子供たちの小中学生の活躍が目立って、本当に明るい話題だったなというふうに思っております。しかしながら、全国大会に四つの種目が出場できた。かつてない好成績だった要因というのは、今までの積み重ねだったのではないかなと。それをここで断ち切ってしまうよう

な、委託料のカットとか、補助金というのはいかなものかなというふうに思います。ここで、市長の方にお伺いしたいんですが、ことしは財政再建5カ年計画4年目ということで、公債費もピークだったわけなので、これは補助金の見直しというようなことでこれはいたし方なかったのかなと思います。むしろ来年からはゼロからもう一度あり方、委託料も含めて検討するというような答弁、ことしの3月にいただいていたと思います。17年度の予算編成にあたって、市長、どのような方針で望まれるか見解をお願いしたいというふうに思います。

大沼 久委員長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 市の体育協会や体育指導委員会に限りません、これは。各種団体等への補助金につきましては、行財政改革推進委員会の答申、それから監査のご意見、非常に補助金の項目が多いし、額も多いということ踏まえて、基本的には運営費的な補助金は原則廃止と。それから、事業費補助金は施策の目的遂行上、どうしても公益上必要があるという場合に予算の範囲内で交付すると。なお、交付される補助金については、これからの成果を検証しながら毎年見直しを実施していくというふうに申し上げてきたと思います。

これから、なお現在業務の棚卸し等なども踏まえながら、委託についてもしっかりと見直しをして、この具体的な補助金につきましては、来年度の予算編成の過程で全体的なバランスを考慮し、見直して決定をしてきたいと思います。
大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 ぜひ聖域ないわけでありませけれども、ことしの子供たちの実績ということも踏まえながら、ぜひご検討をいただきたいというふうに思います。

では、次に総合型地域スポーツクラブの設立推進というところでありますけれども、先ほど文化生涯学習課長の方から話がありましたよう

に、ことは本当に子供たちの成績がよかったと。これは単なる偶然ではなくて、いろんな積み重ねがあるというふうに思います。これは子供たちをサポートする体制が長井市はほかの地域よりすぐれていたということに尽きると思いますが、その要因について時間もありませんが、教育長から見解をお伺いしたいと思います。

大沼 久委員長 大滝昌利教育長。

大滝昌利教育長 お答えをします。ここ四、五年長井市内のスポーツ少年団中学生が県・東北ですばらしい活躍をしている要因として、私なりに三つほど考えているところです。

一つはスポーツ少年団での指導の充実と体育協会の支援が挙げられるのではないかなというふうに思います。中学入学のときにルールから教えなければならぬという競技は県では今は太刀打ちできない状況ですし、体協からの激励金とか強化費は頑張っている選手にとっては励みにもなり、選手強化には大変役立ってきたというふうに考えています。

二つ目は、指導体制の充実と指導者の情熱が挙げられると思います。スポ小とかクラブチームの指導者との連携を図りながら、校長を含めた複数の指導者が子供たちの能力に合った指導体制を整備して、情熱を持って指導している部についてはそれなりの成果を上げています。

三つ目ですが、地域、保護者のバックアップがあると思います。勝つことがすべてというわけではありませんけれども、子供たちも勝ちたい、親も指導者も勝たせたい。その願いが強ければ強いほど頑張る子を育てているのではないかなというふうに思っているところです。

以上です。

大沼 久委員長 2番、内谷重治委員。

2番 内谷重治委員 ありがとうございます。

私も本当に今の教育長の見解ごもっともだなというふうに思います。最後の質問になります。もっともっと質問したい項目があるんですが、

時間がありませんので最後に文化生涯学習課長の方にお伺いします。

今、教育長の方から三つの要素を上げていただきました。この中でやはり1番目、2番目、特に指導者体制とか、そういったものがこれからスポーツクラブ、子供たちの能力に応じた指導体制が必要なのではないかなというふうに思いますし、あと加えて大人からお年寄りまで、自分の目的に合って健康増進ですとか、あるいは技術を習得したいとかいろいろあるかと思いますが、そのためにはやはり総合型地域スポーツクラブということを前向きに進めていかなければいけないというふうに思います。

前に竹田前教育長からある一定の地区をモデル地区として進めたいという旨の答弁を前にいただいておりますが、現在の進捗状況と具体的なものがありませんでしたらお伺いいたしまして、私の質問を終わります。答弁をお願いいたします。

大沼 久委員長 平 進介文化生涯学習課長。

平 進介文化生涯学習課長 総合型地域クラブにつきましては、文部科学省が策定しましたスポーツ振興計画によりまして、2010年までに全国各市町村に少なくとも一つは総合型地域スポーツクラブを立ち上げるというふうになっております。長井市ではこれまでパンフレットを配布したり、各スポーツ団体の説明会を行ったりしてまいりましたが、今年度につきましては具体的に地区に赴いて説明会を開催するために、来月、西根地区において県広域スポーツセンターや県体育協会から専門の方にお出でいただいて、総合型地域スポーツクラブ創設に向けた説明会を開催する予定でございます。

以上です。

大沼 久委員長 2次に、順位5番 議席番号11番、高橋孝夫委員。

11番 高橋孝夫委員 私は長井市の行財政運営が誤りなく展開されることを祈りながら総括質疑を行います。1点につきまして質問を申し